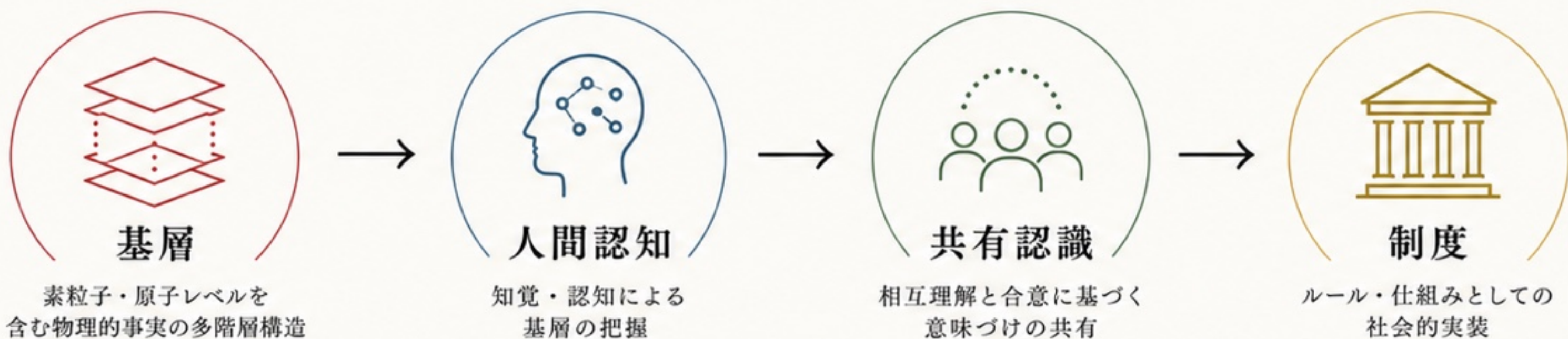


基層生成構造と共有認識層

—— 人間認知による世界形成と生成軸の対応 ——



● **対応関係 = 生成軸** ●

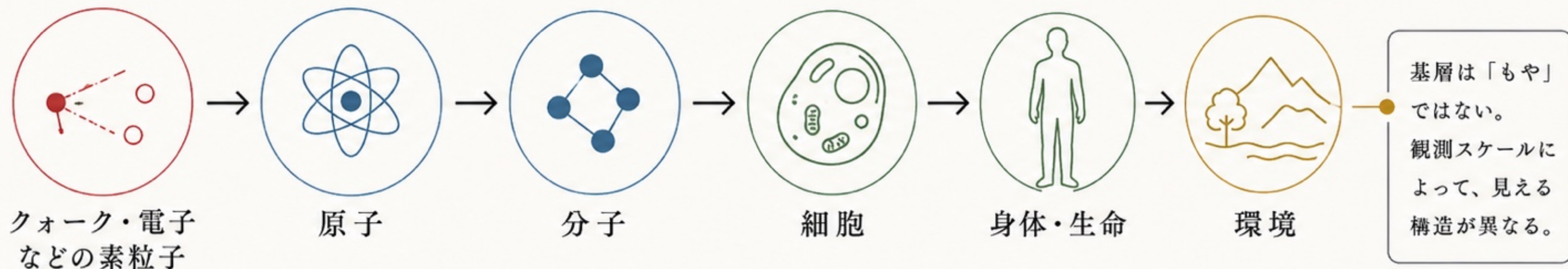
基層は、素粒子・原子レベルを含む物理的事実の多階層構造である。

人間はその基層を知覚・認知し、共有認識と制度を形成する。

本資料は、その層構造と、両者の対応関係としての〈軸〉を整理する。

基層とは何か

—— 素粒子・原子レベルから見た多階層の事実構造 ——



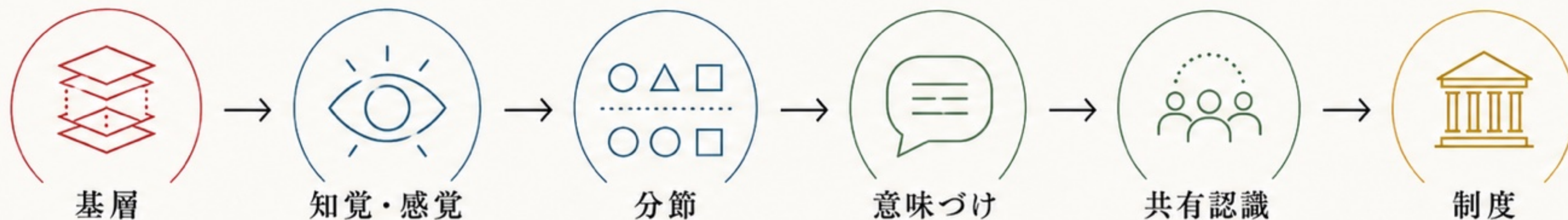
単一粒子の視点：配列・運動

集合・時間・階層の視点：相互作用・生成・循環

基層とは、素粒子・原子レベルを含む物理的事実の多階層構造である。
一粒の視点では配列や運動が現れ、多数の集合や時間軸では生成や循環が現れる。
人間が見る境界以前に、世界を成立させる筋と構造がすでに存在している。

人間認知と共有認識層

—— 基層から人間世界が形成される過程 ——



● 人間は、基層をそのまま経験するのではなく、
…… 知覚・認知によって世界を切り分ける。…… ●

事実の層	人間の世界
● 連続性 ● 多階層性 ● 生成	● 対象 ● 名前 ● 役割 ● 制度

人間は基層の事実を、知覚・感覚・思考によって分節し、対象・意味・役割を形成する。

その意味が他者と共有されることで、共有認識層が成立する。

さらに持続的に固定された共有認識は、制度として社会の中に実装される。

生成軸とは何か

—— 基層と共有認識の対応関係 ——



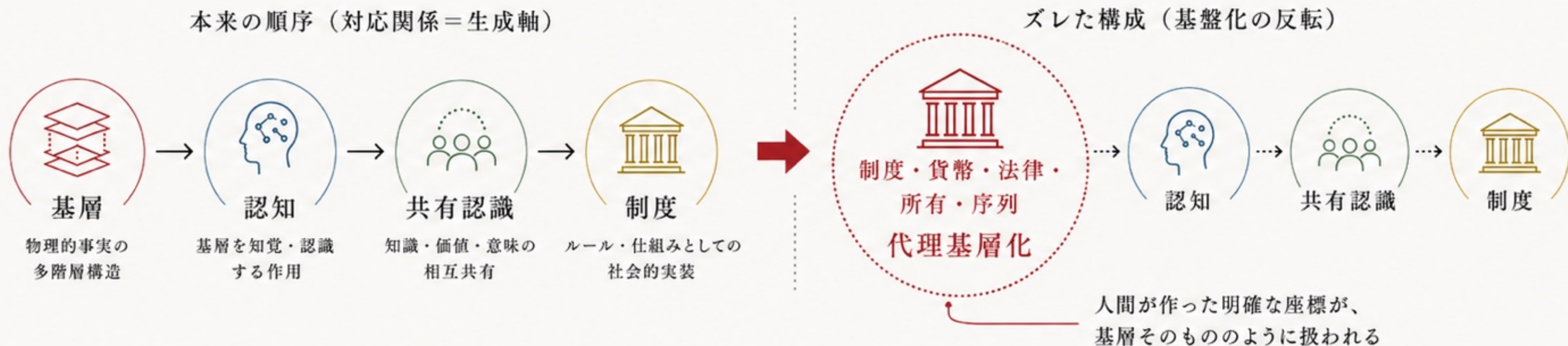
共有認識と制度は、基層そのものではない。

重要なのは、後発的に形成された人間世界が、基層の事実構造とどのような対応関係を持つかである。

本理論では、この層間の対応関係を「生成軸」と呼ぶ。

軸のズレと代理基層

—— 人間世界が自らの構成層を基盤化するとき ——



基層

連続性 ・ 多階層性 ・ 生成



代理基層

数値 ・ 規則 ・ 所有 ・ 序列

共有認識と制度は、社会の中で強い実効性を持つ。

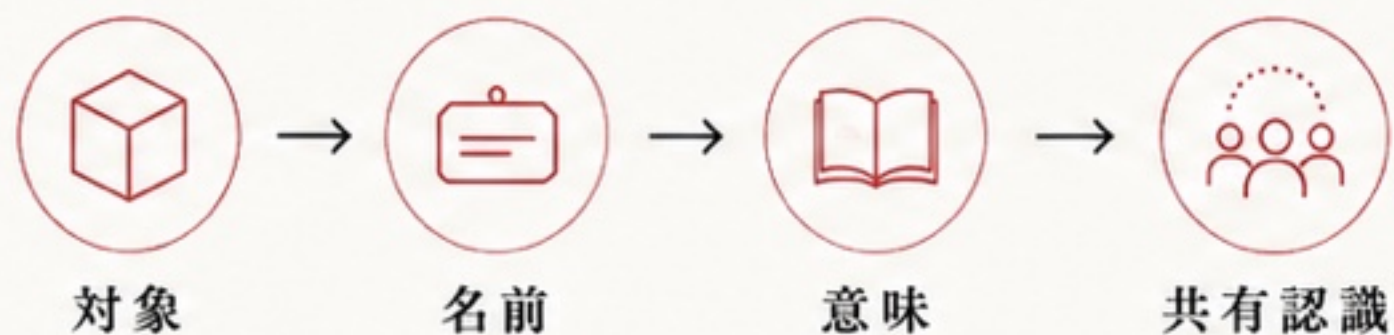
しかし、それらが基層との対応を離れ、自らを基盤として扱い始めると、『代理基層』として機能する。

このとき、人間が作った明確な秩序が、事実構造そのものと取り換えられやすくなる。

基層生成配列認知

—— 一般的人間認知との比較 ——

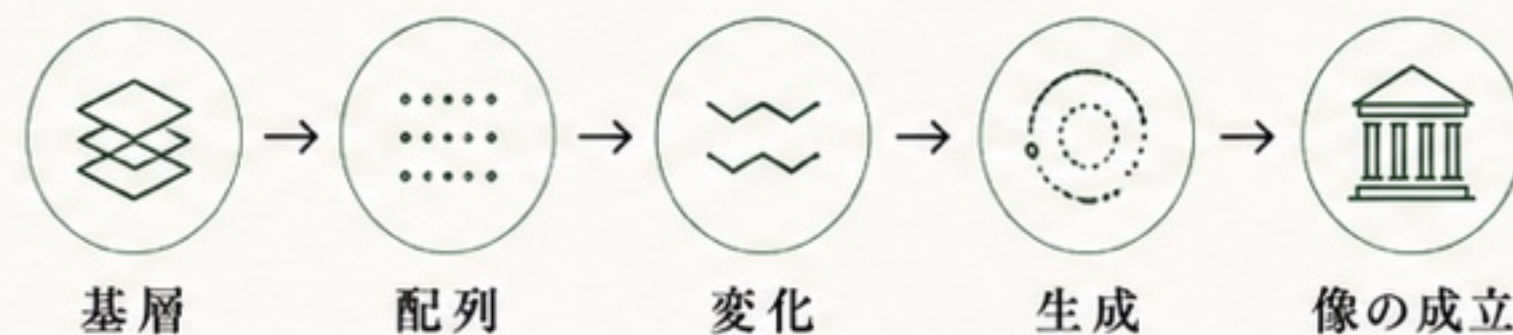
一般的人間認知



完成した像を起点に世界を把握する

同じ世界を
見ている、
認知の起点と
優先順位が
異なる

基層生成配列認知



成立以前の配列と生成過程を
主要な認知単位として捉える

一般的な認知は、対象化された像から名前・意味・共有認識へ進みやすい。

これに対し、基層生成配列認知は、完成した像より先に、配列・差異・変化・生成条件を捉える。

本理論は、この認知差を通して、人間世界と基層の対応関係を観察する。